4. DX 分野リテラシープログラム検討委員会

（資料）

◆第1回　DX 分野リテラシープログラム検討委員会　　議事録

開催日：令和4年（2022年）10月　6日（木）15時～　※Zoom を使用したオンライン開催

◆第2回　DX 分野リテラシープログラム検討委員会　　議事録

開催日：令和4年（2022年）12月23日（金）15時～　※Zoom を使用したオンライン開催

◆第3回　DX 分野リテラシープログラム検討委員会　　議事録

開催日：令和5年（2023年）　2月28日（火）15時～　※Zoom を使用したオンライン開催

○プログラム検討委員会の構成員

氏　名		所属・職名
1	桑田　聖一	株式会社アクトシステムズ　代表取締役社長
2	藤井　光治	株式会社ミウラ　管理本部　統括管理部　統括部長
3	志田　朋子	広島労働局　職業安定部訓練室　室長
4	前田　靖	広島県　商工労働局　商工労働総務課　東部産業支援担当次長
5	藤井　良朗	広島県東部機械金属工業協同組合　事務局長
6	藤岡　克規	福山市　経済環境局　経済部　産業振興課　雇用労働担当課長
7	中森　大道	福山公共職業安定所　業務部長
8	後藤　学	福山商工会議所　産業振興部長（兼）松永支所長
9	鯉江　英司	株式会社穴吹カレッジサービス　岡山営業所　所長
10	種田　真幸	穴吹デザイン専門学校　事務局長・就職キャリアセンター部長
11	信岡　誠三	学校法人穴吹学園（中国）　理事　統括副校長
12	玉田　和人	学校法人穴吹学園　穴吹カレッジキャリアップスクール福山 事業責任者

会議の名称	令和３年度「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」 「DX 分野リテラシープログラム」 第１回プログラム検討委員会 議事録
開催日時	令和４年１０月６日（木）15:00～16:00
開催場所	オンライン会議（Zoom）
出席者	出席委員：信岡誠三委員長、後藤学委員、志田朋子委員、中森大道委員、 藤井光治委員、藤井良朗委員、前田靖委員、鯉江英司委員、種田真幸委員、 オブザーバー　松浦 生幸 欠席委員：桑田聖一委員、藤岡 克規委員
当日写真	 穴吹調理製菓専門学校　レストラン実習室
司会	先山 清華
議事録作成	玉田 和人
議事録作成方法	要点筆記
議題	（１）事業概要説明 （２）講座プログラム概要と日程について（ご意見聴取） （３）受講生募集方法について（ご意見聴取）
会議資料	資料１　　事業計画書（A4 資料 12 枚） 資料２-①　DX 講座概要（A4 資料１枚） 資料２-②　DX 講座日程（A4 資料１枚） 資料３　　受講生募集方法について（A4 資料１枚）
議事	事務局から、資料１を用いて事業計画の説明、資料２を用いて講座概要と日程、資料３を用いて受講生募集方法について説明後、意見聴取を行った。 ■事業概要説明 ■講座プログラム概要と日程について （後藤委員） プログラム的には素晴らしいと思う。11 月生と１月生で各 20 名ということで、どう広報していくかが問題。無料である点、内容が知れると多く集まる可能性もある。今後の広報次第ではないか。

	（中森委員） 講座内容・日程もきちんとしていると思う。計画通り進めてほしい。 （藤井光治委員） 講座内容としては、Excel を中心に仮説立案法データ活用などの DX 分野のリテラシーに関わる科目に派生して効いてくるところが良いと思う。 （藤井良朗委員） 求職者や非正規雇用労働者、学生等へのプログラムであるのが、在職中の方も学び直しということで対象に含めておられる。ただ転職支援になってしまうと、当組合員には案内しづらいので、バランスを取りながら協力をしていきたい。 （前田委員） 「部分受講」を取り入れるということだが、先程の事業概要説明で部分受講者を見込んで時間設定をするということだったが、延べ 400 名目標は、すべて対面授業で受講されることを想定しておられるのか？ （事務局） 基本的には対面授業に参加される部分受講者を想定している。 （鯉江委員） 授業において教材はどのような教材を使用される予定なのか。また欠席された場合のフォローがどのようになされるのか伺いたい。 （事務局） 教材はすべて、講師作成のレジュメにより行う予定。フォローについては 1 月生の授業への振替参加でと考えている。 （種田委員） 私自身就職関連の業務を 30 年以上にわたって行ってきたので、講座の中の就職関連科目等で何かしら協力できることがあると思うので、連携していきたい。 ■受講生募集方法ついて （種田委員） SNS 広告が大事になってくると思われるが、ことに広島市内での PR 等であれば協力できる。 （鯉江委員） 紙媒体を様々な場所に設置依頼をかけていくことも検討してほしい。 （前田委員） チラシの中の「科目名」が判るようになっているのか。 （事務局） 裏面が科目名と内容説明になっている。 （藤井良朗委員） 当組合は 1 万 2 千人の社員を抱えているので、特に「部分受講」について情報を発信、募集協力ができると思う。

	（藤井光治委員） 転職を考えている方に対する募集が難しいのではないか。 （中森委員） ハローワークは求職者が多く集まる場所なので、求職者には周知をしていきたい。転職希望者は求職者に含まれて来るので転職希望者についてもカバーできると思う。 （後藤委員） DX はビジネスマンにとって欠かせないキーワードとなっているので、広報を上手くしていくことで目標人数をクリアしてほしい。 （志田委員）※音声不具合によりチャット質問 今回の受講対象者は幅広い対象者となっているが、定員を上回る応募があった場合はどうなるのか。 （事務局）※後ほどメール回答 パソコンを使用する講義については、台数の都合上、定員の 20 名までとなる。座学については、大教室に変更することで定員を超えても受け入れ可能。（目安は最大 40 人程度）このたびの 11 月開講コースにて定員に達した場合は、次回 1 月開講予定の第 2 クールをご案内する。なお、申し込みは先着順で受け付ける。 （事務局）以上で本日の予定議題の検討が終わり、ほかに報告事項などもないためこれで会議を終了する。

会議の名称	令和４年度「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」 「DX 分野リテラシープログラム」 第２回プログラム検討委員会 議事録
開催日時	令和４年１２月２３日（金）15:00～16:00
開催場所	オンライン会議（Zoom）
出席者	出席委員：7 名 信岡 誠三委員長、志田　朋子委員、藤井　光治委員、藤井　良朗委員、 前田　靖委員、鯉江　英司委員、種田　真幸委員 オブザーバー　松浦生幸 欠席委員：５名 桑田　聖一委員、後藤　学委員、中森　大道委員、藤岡　克規委員、 玉田和人事業責任者
当日写真	
（司会）	松浦 生幸
議事録作成	松浦　生幸
議事録作成方法	要点筆記
議題	（１）DX 分野リテラシープログラム 11 月生中間報告 （２）終了時受講生アンケートについて（意見徴収） （３）１月生の募集状況報告 （４）事務連絡
会議資料	資料１プログラム検討委員名簿（A4 資料１枚） 資料２令和４年度事業計画書（事業概要）（A4 冊子） 資料３DX 分野リテラシープログラム 11 月生中間報告（A4 資料２枚） 資料４終了時受講生アンケートについて（意見聴取）（A4 資料２枚） 資料５１月生の募集状況報告（A4 資料１枚）
議事	事務局から、資料２を用いて令和４年度事業計画書（事業概要）報告、資料３を用いて DX 分野リテラシープログラム 11 月生中間報告、資料４を用いて終了時受講生アンケートについて、資料５を用いて１月生の募集状況報告について説明の後、質疑応答が行われた。

	■DX 分野リテラシープログラム 11 月生中間報告 事務局から、資料３を用いて１１月生中間報告について説明の後、質疑応答が行われた。 （志田委員） この事業の対象者の中には非正規労働者（仕事についていない方）も含まれていたが今回応募した１５名の方はすべて就労者であり、離職者が申し込みしなかった要因およびハローワークへの周知・展開がどうだったのか教えてほしい。 （事務局） ⇒離職者の申し込みがなかった要因としては一つに DX 事業という名称がハードルが高かったためではないかと考えている。内容をわかりやすく初学者でも学びやすい名称にするなど改善していきたい。また、ハローワーク周知協力については、福山ハローワークの協力を得て事業チラシを求職者向けの SNS 情報発信（LINE）に掲載いただき周知していったが問い合わせがあったものの残念ながら申し込みには繋がらなかった。 （藤井光治委員） 受講者は４０代～５０代の方が多かったため、DX はある程度年齢が高いかたに興味を持たれ、逆に若い世代には興味が薄いのかと思った。 （藤井良朗委員） DX に興味があるのは受講側もあるが、経営者側が DX 人材を育てたいということで受講させるといったところが本音ではないかと考える。そのため離職者が受講するには敷居が高いような気がする。情報誌を見ている方はいいのだが見ていない方のほうが多いと思われるので、どちらかというとこの事業は非正規雇用の方や正規雇用の方のための育成事業ではないかと思う。 （前田委員） 受講率エクセル実習４０％だが、部分受講や当日事情により欠席された方もおられるため、興味がないのではなくもう少し分析が必要かと思う。第２クールの出席率にも注目していきたい。 （鯉江委員） 離職者の申し込みがなかった点で、今後の広報において紙媒体であれば求人雑誌への広告やインターネットを利用するのであればリスティング広告を使って募集すると効果が上がるのではないかと考える。例えば福山＿正社員とか検索しやすいキーワードを使うと求職者の方も目につきやすい媒体になるのではないかと思う。 （種田委員） 本事業は内容もいいので第２クールの募集については期待している。 ■終了時受講生アンケートについて 事務局から、資料４を用いて終了時受講生アンケートについて説明の後、アンケート項目について質疑応答が行われた。

	（種田委員） この質問事項で問題ないのではないかと思う。 （藤井光治委員） この項目以外で追加するとなると開催場所が適当であったかどうかを入れたらどうかと思う。 （鯉江委員） このプログラムで使用したテキストやレジュメについてテキスト評価項目やコロナ禍での実施であるため対面授業だけでなくオンラインを組み合わせる実施方法についてのアンケート項目を入れたらどうかと思う。 （前田委員） このアンケート内容で問題ないと思います。 （藤井良朗委員） このアンケートで十分ではないかと思う。 （志田委員） 講師に対する評価項目を入れてもいいのではないかと思ったことと、現在ついている職種で今後こういった職種につきたいという記載項目があればいいのではないかと思う。 また、この講習を終えたあと今後どのような講習を希望するかきいてみることもいいと思う。 ■１月生の募集状況報告 事務局から、資料５を用いて受講生募集について説明の後、受講生募集方法について質疑応答が行われた。 （志田委員） 求職者の応募について福山ハローワークの公式ラインでの周知をぜひ活用してほしい。 （藤井光治委員） チラシ等に QR コードをつけることは賛成でありほかの広告にも活用すべきと思う。 （藤井良朗委員） こういった事業は受講生がある程度集まらないと成立しないと思うので組合としても募集には協力していきたい。また、広告内容が掲載されている URL を積極的に掲載するなどすれば効果的ではないかと思う。 （前田委員） １月生の締め切り期限はあるのか。 （事務局） 申し込み期限は特に設けていない。部分受講ができるため途中からでも申し込みができる。 （鯉江委員） 職業訓練を実施している学校等に事業チラシを設置してもらうよう協力を要請

	するという方法や自治体で就労支援をしているところにチラシ設置の協力要請を行うなど求職者募集には効果があるのではないかと思う。 （種田委員） 内容もいいので引き続き募集活動をしっかりしてほしい。 （事務局）以上で本日の予定議題の検討が終わり、ほかに報告事項などもないためこれで会議を終了する。次回の委員会は、令和５年２月２８日15時からの予定。

会議の名称	令和３年度「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」 「DX 分野リテラシープログラム」 第３回プログラム検討委員会 議事録
開催日時	令和５年２月２８日（火）15:00～16:00
開催場所	オンライン会議（Zoom）
出席者	出席委員：９名 信岡 誠三委員長、志田 朋子委員、桑田 聖一委員、藤井 光治委員、藤井 良朗委員、前田 靖委員、鯉江 英司委員、種田 真幸委員、玉田 和人事業責任者、オブザーバー　松浦 生幸 欠席委員：３名 後藤 学委員、中森 大道委員、藤岡 克規委員
当日写真	 穴吹ビジネス専門学校 会議室
司会	先山 清華
議事録作成	玉田 和人
議事録作成方法	要点筆記
議題	（１）令和４年度事業実施報告 （２）受講者アンケート結果について （３）プログラム課題整理（ご意見聴取） （４）事業成果の活用について（ご意見聴取）
会議資料	資料１　令和４年度事業実施報告書（A4 資料 13 枚） 資料２　終了時受講者アンケート結果（A4 資料６枚） 資料３　プログラムの課題整理（A4 資料１枚） 資料４　終了時受講生アンケートについて（意見聴取）（A4 資料２枚）
議事	事務局から、資料 1 を用いて令和４年度事業実施報告書の説明を行った、資料２を用いて DX 分野リテラシープログラムのアンケート結果を報告し、資料３を用いてプログラムの課題整理について説明の後、そのあと質疑応答・意見聴取を行った。 ■令和４年度事業実施報告 ■受講者アンケート結果について 事務局から、資料１、２を用いて報告後、質疑応答・意見聴取を行った。

	（志田委員） 事業開始が遅くなったこともあり、受講者の数が少なくなってしまったということだが、受講された皆様が概ね満足しておられる結果となったので、今後年度を重ねるにつれて受講者の数が増えて、有益なカリキュラムになってくるのかなと思った。部分受講は、結果として目標の４００名には達しなかったが、どの科目がより多く申し込まれていたのか教えていただきたい。 （事務局） 最も多かった科目は「マーケティング基礎」「統計の基礎 データ分析法」などビジネス関連の科目の需要が強かったと思う。 （藤井光治委員） 受講された方の年代について詳しくご説明願います。 （事務局） 最も多かった年代は４０代の１１名、次いで２０代８名、５０代６名、３０代は５名。 （藤井良朗委員） 受講者の集まりが悪かったのが残念だが、受講しに来られた方は、非常に学習意欲が高いとのことで、今後もこういった活動を地道に継続していかれたら世の中の役に立つように思う。次年度あたりからは、より多くの受講者が集まるようになるのではと思う。 （桑田委員） 今回のプログラムは、非常に網羅的に科目が配されているので、他にはないものになっていたと思う。我々はシステム会社だが、マーケティングやデータ分析の知識がないと「何のためにシステムを作るのか？」などが分からなかったりするので、今回のような内容が継続的に学習できると、地域に貢献できると思う。 （前田委員） 今回失業者の方がいらっしゃらなかったとのことで、ほぼ全員在職中の方々であったということだが、プログラムの中で「脱落者」は出なかったのか。 （事務局） 脱落者は出なかったと思うが、年末年始に平日夜と土日に１５時間受講していくというのは、在職中の方にはつらかったと思う。徐々に欠席者が目立つようになった。 （前田委員） 今回のアンケートで「Tableau をもっと学習したかった」との意見が多かったようだが、導入企業も増えてきているようなので、もう少し入門編から実習に移行するような時間的な余裕があれば良かったと思う。 （鯉江委員） 申込者の内、将来的に転職を考えている方が若干名いたとのことだが、それらの方にとって、今回のプログラムの内容は転職希望先の業種・職種と関連性が

	あったのかどうか、わかる範囲でお聞きしたい。 （事務局） 1 名は関連しているとのことだった。 （種田委員） DX 分野のリテラシープログラムということで、カリキュラムを組まれたのは相当ご苦労があったと思うが、今後のところで是非アンケート結果を十分踏まえて、カリキュラムのブラッシュアップをしてほしい。していかれることを希望する。 ■プログラムの課題整理 事務局から、資料 3 を用いて説明後、質疑応答・意見聴取を行った。 （種田委員） DX の先進事例から学ぶことが多いと思うので「データ活用先進事例研究」の内容を厚くしてやっていくのが良いと思う。先進事例や失敗事例というのがまだたくさんない時期だからこそ、こういったものがあると、より学んでみたいとなるのではないかと感じた。DX の先進事例というのは必ずしもプログラムを考えていくというわけではなく、今あるものを使って効率よくできる、そういったところからスタートするのが DX の基本。社内のメールのやり取りの内容など一つ工夫するだけでも、業務が効率よくできればそれは DX という認識のようだ。そういったこともプログラムに取り入れていくとより分かりやすくなると思う。 （鯉江委員） アンケート結果で、内容が少し難しかったという意見があったと思うので、就職・転職支援という視点を踏まえて言うと、求職者にとってハードルが高く感じられる内容にならないように、入門編など導入部分を設けるようにすると良いのではと思う。。 （前田委員） 今回の科目では、技能・技術的なものと知識習得の内容と混在していたように感じているので、今後はどちらかに振って分かり易くするのが良いと思う。 （桑田委員） DX 分野のリテラシーということなので、範囲を広く設定されたと思うが、業種によって課題は様々なので、特定の業種に合わせて考えていくこともあってもいいと思う。 （藤井良朗委員） 今回の内容であれば、就業者にターゲットを絞っていく方が良いと思う。その場合、1 回の授業時間を短くして期間を長くすることが受講しやすさにつながるので、受講希望者も増えるのではと思う。プログラムの内容を実務にすぐ役立つものでなく、IT とか基礎・基盤になるビジネス知識。学問的な内容をきちんと身につけることができる内容がものづくりの現場の就業者にとって必要だと

	思う。 （藤井光治委員） プログラムの内容として実習の方を増やすべきだと思う。またデータリテラリストという職種で求人がほぼなく認知度が低いと思う。DX というと業務を効率化するのが一番大事であるから、RPA（ロボティックプロセスオートメーション）なども追加されても良いと思う。 （志田委員） 今回求職者が少なかったことは、公共職業訓練に流れたと考えられるが、今後もターゲットをどこにするかは、なかなか難しいと思う。また、内容については、地域の特性を踏まえて DX の活用事例を取り入れながらカリキュラムを組んでいただくことが良いと感じた。 ■事業成果の活用について 令和 5 年度～7 年度からどのように活用していくのか、各委員の意見聴取を行った。 （志田委員） 同事業の成功事例等を採り入れていかれると良いと思う。 （藤井光治委員） 各事業者の実例をもっと取り入れていくと良いと思う。 （藤井良朗委員） 個人でこのようなプログラムを申し込んで受講することはなかなか難しいと思うので、企業単位で受講勧奨していくことの方が受講生を増やせると思う。 （桑田委員） ビンゴデジタルラボ等と連携していくことが良いと思う。やはり企業単位で取り組んでいくことも重要だと思う。 （前田委員） 部分受講者の募集強化をしていくことが良いのではと思う。 （鯉江委員） 横展開に際して、成功事例を参考にして展開していくのは一つだと思う。あとは地域ニーズを的確にくみ取っていくことが重要だと思った。 （種田委員） DX の基本的な考えで「見直し」が大事である。ブラッシュアップのためにも、「変える」というのが一番大事なので、取組計画にあまりこだわらずにやっていかれたほうがいいと思う。今回得られた教訓を活かしてまずはやってみること、その上でさらに課題が出たら修正していくことが重要だと思う。 （事務局）以上で本日の予定議題の検討が終わり、ほかに報告事項などもないためこれで会議を終了する。